

「ごちゃまぜ」 あらゆる障害のない社会へ

GOCHAMAZE
times2019
SUMMER
vol. 12

令和時代のごちゃまぜ

境界線は時として揺れている

インタビュー「ごちゃまぜな人」第12回
新澤克憲さん

世田谷区にある精神障害をもつ方の就労継続支援B型事業所「ハーモニー」取材で伺った際、利用者の方は自宅のリビングで過ごすかのように落ち着いて過ごしていました。そんなハーモニーをつくった新澤さん。ハーモニーが作業をするだけの場所ではなく、「居場所」になるまでのお話を伺いました。



ハーモニーは皆でのごんぶり過ごす」が特徴の施設です。やっていることは他の作業所と同様ですが、工賃を貰う目的で利用していない人もいます。ご飯を食べに、友達に会いに、生活の一部として顔を出す。そういう場所がハーモニーです。ここには他の作業所で安住できず辛い思いをしてきた人が来ているので、ルールは「何々をしよう」ではなく、「何々をしなくていいよ」というものが多いです。日常生活の拠り所になる所は、落ちつけて、仲間がいて、楽しい方がいいんじゃないかと思っています。

幻聴妄想かるたは話題になったハーモニーの商品ですが、元々ここに来ている人は精神疾患で苦労している人たちなので、幻覚や妄想の話はよく出てきます。誰かの幻覚や妄想を皆で心配したり、面白いねと話題にすることは日常でした。かるたができたきっかけは、ハーモニーが就労継続支援B型施設となった頃、工賃を稼ぐために考えた「幻覚妄想体験劇」という企画でした。その劇用に集めた幻覚妄想体験に、皆で絵を描いたものが幻聴妄想かるたの原型です。かるたを作る過程の中でメンバーたちが自分のことや今まで言えなかった幻聴妄想の話も、ここでは話しても大丈夫となったことがよかったと

思います。仮にかるたが売れなかったとしても、居場所作りとしてかけがえのないものでした。かるたは第三弾まで出ていて、第一弾は尖った妄想体験が多く、第二弾はよりパーソナルな内容です。第三弾にはハーモニーのメンバー以外の人も入っています。精神障害者と健常者の境界線は、時として揺れているかも、ということを感じてもらえるような札の構成にしています。

今、日本の精神科病棟の平均入院日数は170日。世界でも群を抜いて多い日数です。社会に行き場所がないために、病気の症状が軽減しても長期入院している人も多くいます。表向きは綺麗な社会でも、排除されている人たちは見えない所にいる。多様な人たちが共存している世の中など、僕には遠い絵空事のように感じます。例えば日々、電車で人身事故という自殺がある。心にトラブルを抱えて命を絶つ人が近くにいても、問題意識の外に追いやられ、自分には関係ないという。精神科病院に長期入院させられている人たちを見ぬふりをするのと、自殺で失われる命を意識の外に追い出してしまうことが、どこか繋がっているようにも思えます。精神障害の場合、人の健康と迷惑が天秤にかけられている時もあります。気力がなくなりが捨てられない、

新澤 克憲
しんざわ・かつのり

1960年広島市生まれ。精神保健福祉士、介護福祉士。東京学芸大学教育学部卒業後、デイケアの職員や塾講師、職業能力開発センターでの木工修行を経て1995年共同作業所ハーモニー（現在は就労継続支援B型事業所）開設と同時に施設長。だれのところにもある差別を歌うパンクロックバンド「ラブ・エロ・ピース」のギタリストとしても活動中。ハーモニー公認ブログ: <https://harmony.exblog.jp/> 超・幻聴妄想かるた特設ページ: <https://harmony.exblog.jp/238582094/>

不安で大声を出すと言った行為が精神科の患者だと、すぐ「入院させよう」になる。入院は医療的な必要があったりするもので、迷惑は病気ではないです。入院という方法ではなく社会に出て、人と人がどうマツチングして大丈夫かを試していく。より多くのトライアルと、現場の知恵が許される環境を作っていくかなくてはと思います。

平成の時代では津久井やまゆり園の事件が記憶に残っています。幻聴妄想かるたにも、命を軽視する犯人に、命の大事さ、生き物の生老病死を体験できる牧場で働いて知ってほしかったという札があります。スタッフの僕は、自分や同僚の中に、命の価値を独善的に価値づけるような発想はないか、と問い続けています。時代全体を見通すと、障害とそうでないものを分けたとて、それは一時的な線引きでしかなく、線引きによって障害福祉の現場は陳腐なものになってしまおうと感じています。障害があるからと集められ、障害のある人とだけ付き合い、一生を終える、それは当事者が望んだことではないはず。線引きを超え、当たり前に友達ができる。そんな動きをハーモニーのメンバーも始めているので、遅れをとらないようにしています。

オバマ大統領誕生

ゲームシェアハウス
多文化共生社会
2.5世代
シェアオフィス
シェアリングエコノミー
拡張家族
シェアとは記憶が
まぜりあうことである！

金八先生	ロボットレストラン	同性婚	携帯電話	相対的貧困	SNSの普及	夫婦別姓	ポケモン	ダイバーシティ	草食系男子／肉食系女子	選択的夫婦別姓訴訟	ソーシャルインクルージョン	男女共同参画社会基本	マツコ・デラックス	ボーカロイド	りゅうちえる
平成	の	ご	ち	や	ま	ぜ	キ	ー	ワ	ー	ド				

「男の子だって
お姫様になれる!」は名言

ライフスタイル

- 種の保存法
- 自己責任
- 武洋匡
- 失言個性
- SDGs
- 後期高齢者
- 障害者差別解消法
- サステナビリティ
- 一億総活躍
- インターネット
- インクルーシブ
- 農民は筋肉労働で働くしか能がない(1989)
- 女性は子どもを産む機械だ(2008)
- LGBTカップルは『生産性』がない(2018)
- G7先進7カ国の国の中でわれわれは唯一の有色人種
- 金かねえなら結婚しない方がいい(2009)
- まだ東北でよかった(2017)
- 排除致します(2017)
- 何であんな黒いのが好きなんだ(2017)

看護師
主婦/主夫
厚底
ギャル
女子高生
ファッション

マイノリティ 多自然主義

プリキキュア

ポリアモリー
おひとりさま
バリバラ
日韓共催ワールドカップ
年越し派遣村
ジェンダーレスファッション
モンテッソーリ教育
SNS
ユニバーサルデザイン
多様性
平成の大合併
スクールカースト
NIMBY
ポリアモリー
アマゾン
食品偽装問題
レインボープライド
女性活躍
多自然主義

あなたの「にくさ」が、
ごちゃまぜの種子になる。

自分らしくありたい。
誰を好きになろうと、どんな服を着ようと、
子どもがいようとまいと、障害があろうとなかろうと。
国籍や年齢、宗教や職業に関係なく、自分らしく。

けれど、そんな些細で当たり前の願いさえ、
周囲から求められる役割や常識、偏見に阻まれ、
個人を成り立たせる「自分らしさ」は、
社会に出た途端、「生きにくさ」へと姿を変えてしまう。

生きにくさは語りにくく、見えにくい。
必要なのは、いたずらに「らしさ」を称揚することではなく、
ひとりひとりにある「にくさ」を持ち寄り、
少しずつ、その「にくさ」を言葉にできる場であるはずだ。

あなたが、あなたらしさのまま光ることができる社会は、
まず、あなたの「にくさ」を知ることから作られる。
ごちゃまぜタイムズは、あなたの「にくさ」を持ち寄る場。
そこにはきっと、ごちゃまぜの社会を作る種が見つかる。

表紙フォトグラファー | 奥田 峻史 (おくた みちふみ)
SOCIALSQUARE 熊本店
ソーシャルコーディネーター/社会福祉士
1994年生まれ。秋田県仙北市出身。社会福祉士。東日本国際大学で社会福祉を学んだ後、
2017年新卒入社でソーシャルデザインワークスへ。学生時代は硬式野球部に所属。2年生の秋に
野球部を辞め、趣味だった写真を活かし写真展『境界線』を開催。その他の活動として、いわ
きユニバーサルマルシェ (被災障がい者自立支援促進事業) で取材・情報発信活動に携わる。

最新記事は WEB の GOCHAMAZetimes で!



<https://gochamaze.jp>

今回の特集やインタビューの全文を公開中!過去のタブロイドのアーカイブはもちろん、ウェブ限定のインタビューや対談など、ここでしか読めない記事も豊富にあります。ぜひ一度ウェブ版もご覧になってみてください。

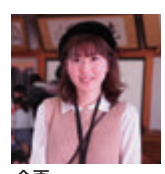
WHO WE ARE



広報 PR
TAIKAN FUJIKI



企画
RYOUEI OOMORI



企画
MAMI MATSUOKA



編集
KAORI WATANABE



発行人
TSUYOSHI KITAYAMA



編集
RIKEN KOMATSU



デザイン
NAOKO ETOU



企画
MICHIFUMI OKUTA

Edit Members





詳しくは web をご覧ください。

<https://sdws.jp>

NPO法人ソーシャルデザインワークス
私たちは「すべての仲間の幸せを追求すると共に諦めない社会を創る」を理念に掲げているNPO法人です。2019年現在、福島県いわき市、兵庫県西宮市、熊本県熊本市で障害福祉サービス事業所を展開しています。障害福祉サービス事業を軸とし、障害の有無や性別、国籍、年齢など一切関係なく、様々な属性の方々が自然に交流ができる機会を、ごちゃまぜイベントと題し企画運営しています。また、ごちゃまぜの発信・広報を行っています。

SOCIAL SQUARE

- ソーシャルスクエア -

から

ソーシャルスクエアには、さまざまな生きにくさを抱える方が自立や就職を目指し通っています。このコーナーではソーシャルスクエアの活動報告や利用しているメンバー、働くクルーの声をお届けします。

□ SOCIALSQUAREとは □

ソーシャルスクエアは障害や生きにくさを抱えた方に就労移行支援や自立訓練（生活訓練）を行う多機能型の福祉事業所です。通所しているメンバーは自分の生活リズムを整えながら、他者とのコミュニケーションやビジネススキル、ストレスコントロールなど、働くことや安定した生活を送る為に必要な知識やスキルを学びます。ソーシャルスクエアは「社会と現在の自分を結ぶための広場」というコンセプトを掲げ、メンバー自身のスキルアップだけではなく、社会と繋がるためのカリキュラムやイベントも積極的に行っています。

ソーシャルスクエアメンバー募集中!

あなたの「やりたい」を応援します。まずは少し覗きにきてみてください!

For more information

web <https://socialsquare.life>

◀ SOCIALSQUAREいわき店
サービス管理責任者 今泉俊昭



ソーシャルスクエアいわき店の藤木です。

今回は「菌から学ぶぐちゃまぜ」ということで、何言ってるの？と思われるかもしれませんが少しお付き合い頂ければと思います。

ここ数年、腸内細菌、腸内フローラ、腸は第2の脳などのキーワードと一緒に発酵食品が目まぐるしくなりつつあったブー

ムとなっています。身近なところだと味噌、納豆などは日本人なら誰でも知っている発酵食品ですね。

ではそもそも「発酵」とはなんぞや？というところなんですけど、ざっくり説明すると「人間に有用な微生物が働いている過程」これが発酵で、「人間に有害な微生物が働いている過程」これが腐敗となります。つまり、微生物がやっていることは同じことをやっているんですが、個々の微生物の特徴が人間にとって役に立つかどうかで呼び方が変わるわけです。

さて、今回のお話は今発酵の世界では大注目の、発酵デザイナー小倉ヒラクさんの著書「発酵文化人類学」の内容を参考にさせて頂き書いています。（面白いから読んでみてね）

小倉さんは発酵に関わる微生物の研究をしながら日本各地の発酵食品を探すこともしているのですが、発酵食品で面白いところ、小さい島のような僻地に行くほど、発酵食品の多様性が

増していくというところ。発酵食品はもとも食材を保存する為に発酵してきているので、地域ごとにいろんな食材を発酵させるわけですが、僻地に行くほど保存食を作るのも「苦労になりやす」（山間部だと塩が手に入りにくかったりね）

そこで様々な試行錯誤の末に多様な発酵食品が生み出されてきました。更に面白いのが微生物が発酵を起こすプロセスです。ヨーグルトを例にして説明すると、「牛乳の中にある糖分を乳酸菌が食べて、乳酸とエネルギーに分解されたもの」これがヨーグルトの正体。もっと平たく言うところ、ヨーグルトとは乳酸菌の「うんち」ということです。ただし、この「乳酸菌のうんち」が人間にとっては「美味いぐちゃまぜ」となります。

つまり微生物にとっての「うんち」が、人間にとっては「宝物」になるということです。見方によっては発酵菌というのはとても気が前が良く、「惜しみなく贈与する存在」とも言えるかもしれません。

まだ何を言いたいのかわからないです。ここからまとめていきますよ。

私たちソーシャルデザインワークスは障害福祉のサービスをやっている中で、障がいのある方達の「生きにくさ」と向き合う機会が多いです。この「生きにくさ」がどこからきているのかなと考えた時に、現代の資本主義的な市場経済に「因があるんじゃないかな」と思いました。市場経済では、強者はより勝ち、弱者はより負け。そんなシビアナ等価交換を原則とした世界です。反対に「贈与経済」（ギフトエコノミー）という考え方があります。これは現代でいうところのボランティア活動や地域コミュニティによる贈り物の文化、家族間のコミュニケーション。個人の損得を超え、お隣さんに気前よく贈り物をすること、で回っていく経済のカタチを指しています。

これですごく発酵菌の動きと似ているなと思うわけです。何かを交換するとそこに副産物がくっついてくる。それによって他人同士が仲良くなり秩序が形成されていく。こんな「発酵的」なコミュニケーションを通じて多様な個性を認め合う世界が作れたらいいなと思います。

周りを蹴落とす強い個体が満ち溢れた環境は住みにくいですね。

最後に発酵デザイナーの小倉さんに質問した時のコメントを紹介して終わりたいと思います。

「多様性を広めるためには外から新しいものを入れるだけでは駄目。閉じられた環境で工夫するからこそ多様性は育まれる。」

編集後記

本号では、「多様性」をキーワードに、様々な地域で活動されている方にお話を伺ったり、我々編集部でも座談会を開いたりして、意見交換を行いました。

「多様性」と一言で表現しても、自分の好きなコトやモノ、職種、役職などによって、返ってくる答えは様々です。それらには、正解も不正解もありません。何でそう思ったのだろう？何でそう感じたのであろう？そんな、「違いを楽しむ」ことが出来るのも、多様性の醍醐味の1つではないでしょうか。 企画 / 松岡真満

いわき

文・渡辺香

GBでビーチクリーン

6月1日(土)は、「ごみゼロウィーク」にちなんで、いわき市四倉海岸でビーチクリーンを行いました。普段はいわき駅や内郷駅などでゴミ拾い活動をしているグリーンバードいわきチーム、今回は海岸の清掃活動に挑戦！SOCIAL SQUAREを利用してのメンバーさんも一緒にゴミ拾いに参加します。この日は地域の方々はもちろん、近隣の高校やボーイスカウトのみなさんも駆けつけていただき、30名以上が参加！大所帯のビーチクリーンとなりました。



ンとなりました。大勢で立ち向かいましたが、海岸には細かなプラスチックから大物まで、大量にゴミが!! 花火やバーベキューごみ、不法投棄のものなどが目立ちました。夏に向けてキレイな海岸を保ちたいですね。

またこの日のグリーンバードはコカ・コーラさんの協賛をいただいで実施していました。口ゴ入りのグローブやビブス、飲み物などが提供され、熱中症にならないようにみなさん水分をとっていました!

いわき店

福島県いわき市内郷内町水之出17
ソーシャルスクエアビル 1F

0246-84-8301

ss.iwaki@sdws.jp

西宮

文・脇谷 実美

ものづくりと関係づくり

西宮店では毎週木曜日に「朝活」というプログラムを行なっています。朝活とは「会話の練習がしたい」というメンバーさんの提案から始まったコミュニケーション系のプログラム。練習といっても「いきなり話してみてください」では難しいですが、なにか共有できる時間や物事があるだけでその場に参加しやすくなり、相手を意識せずに会話を行えるものです。

そのため普段の朝活ではボードゲームを通じて交流することが多いのですが、先日は趣向を変



西宮店

兵庫県西宮市中前田町 1-27
ラビットビル 1F

090-8377-4839

ss.nishinomiya@sdws.jp

いわき スポーツ

文・渡辺香

たのしく、かしく、体を動かす!

今回は4月にオープンしたSOCIALSQUARE Sports。そこで実施しているオリジナルカリキュラム、「ライフキネティック」について紹介します。ライフキネティックとは、体を動かしながら脳に刺激を与え、脳機能の向上と神経の伝達機能を強化できるトレーニングです。海外のプロサッカーチームなどでも練習に取り入れているのですが、簡単な動きだけなので、4歳から高齢の方まで楽しくトレーニングすることが出来ます。



ライフキネティックは公認トレーナーからのみ提供することができないため、体験できる機会はとても少ないですが、頭ではわかっていても、体は思ってた通りに動いていない、なんてことが多々ありますが、それも醍醐味のひとつで、ライフキネティック中は利用者さんも自然と笑顔になって体を動かしています!

いわき地域の方であれば、どこでも体験いただけますので、気になる方はぜひお問合せください。

SOCIALSQUARE Sports

福島県いわき市平上荒川字桜町 1-1
あらたな内

070-3349-6785

ss.sports_iwaki@sdws.jp

熊本

文・奥田 峻史

季節の移り変わりを楽しむ

6月は「新茶を楽しむ会」というプログラムを行いました。皆さんは今年、新茶（一番茶）を飲まれましたか？熊本店のメンバーさんは20代の方が多く、新茶を意識的に飲む機会は少ないようです。ちなみに、新茶とはその年の最初に生育した新芽を摘み採ってつくったお茶のことです。新茶は渋みがなく甘い爽やかな香りがします。眠気を引き起こすことなく気分をリフレッシュさせる作用を持つテアニンも多く含まれています。一方、新茶の後に摘み採られる「二



熊本店

熊本県熊本市中央区水前寺公園 3-4
土山天祐堂ビル 2F

070-7587-9202

ss.kumamoto@sdws.jp